



The bridge to possible

データシート

Cisco Public

Cisco Aironet 1850 アクセス ポイント

目次

製品の概要	3
機能とメリット	3
製品仕様	4
ライセンス	15
保証情報	17
シスコの環境保全への取り組み	17
構成情報	17
シスコ サービス	18
Cisco Capital	18



図 1.
Cisco Aironet 1850 シリーズ

製品の概要

小規模および中規模のネットワークに最適な Cisco® Aironet® 1850 シリーズは、エンタープライズクラスの 4x4 MIMO (IEEE の新しい 802.11ac Wave 2 仕様をサポートする 4 空間ストリームのアクセスポイント) により、企業やサービスプロバイダーに業界トップクラスのパフォーマンスを提供します。Aironet 1850 シリーズは、スマートフォン、タブレット、高性能ラップトップなど、802.11ac Wave 1 または Wave 2 サポートを統合した新しい世代の Wi-Fi クライアントにも対応しています。

機能とメリット

802.11ac Wave 2 により、Aironet 1850 シリーズは 5-GHz 無線で最大 1.7 Gbps のデータレートを提供します。これは、今日のハイエンド 802.11n アクセスポイントの 3 倍以上のデータレートになります。また、合計集約デュアル無線で 2.0 Gbps のデータレートを提供できるため、ワイヤレスユーザの期待とニーズに応えるのに十分なパフォーマンスと帯域幅の基盤を企業やサービスプロバイダーのネットワークに提供します。

ワイヤレス アクセスは、その便利さにより、企業ユーザのネットワーク接続手段として急速に普及しつつあります。このためワイヤレスに対する期待も拡大しており、ユーザの業務効率を低下させることなく自由に移動できる高性能ワイヤレスネットワークへの需要が高まっています。1850 シリーズは、非常に安全で信頼性の高いワイヤレス接続によって業界トップクラスの性能を実現し、次に示す堅牢なモビリティエクスペリエンスを提供します。

- 4x4 多入力、多出力 (MIMO) 技術を備えた 802.11ac Wave 2。シングルユーザ MIMO モードでは 4 つの空間ストリーム、マルチユーザ MIMO モードでは 3 つの空間ストリームを提供し、1.7-Gbps レートによって競合他社のアクセスポイントよりも高い容量と信頼性を実現しています。
- マルチユーザ MIMO。クライアント エクスペリエンスを向上するために複数の 802.11ac Wave 2 対応クライアントにデータを同時に送信できます。マルチユーザ MIMO 以前は、802.11n および 802.11ac Wave 1 アクセスポイントは 1 度に 1 つのクライアントにしかデータを送信できず、一般にシングルユーザ MIMO と呼ばれていました。
- 送信ビームフォーミング テクノロジーにより、空間ストリーム数が 1、2、3 の 802.11ac デバイスを含め、モバイルデバイスへのダウンリンクパフォーマンスが向上し、さらにスマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスのバッテリー駆動時間も長くなります。
- Cisco Mobility Express による柔軟な導入モードは、必要なアクセスポイントが複数の小規模から中規模の導入に最適です。簡単なセットアップにより、物理コントローラなしで 1850 シリーズをネットワークに導入することができます。

- リモートワーカーまたはミニオフィス向けのセキュアな接続。Cisco Aironet または Catalyst アクセスポイントは、OfficeExtend アクセスポイント (OEAP) として機能できます。OEAP を使用すると、自宅または一時的なマイクロオフィスにいる従業員は、VPN を設定したり、高度な技術的知識を必要としたりすることなく、企業の SSID と企業のネットワークにアクセスできます。
- Cisco User Defined Network は Cisco DNA Center で使用可能な機能で、これにより IT 部門はエンドユーザに共有ネットワーク上の独自のワイヤレス ネットワーク パーティションの制御を任せることができます。エンドユーザは、このネットワークにデバイスをリモートで安全に導入できます。大学の学生寮や長期の病院での滞在に最適な Cisco User Defined Network は、デバイスのセキュリティと制御の両方を提供し、各ユーザはネットワークに接続できるユーザを選択できます。(2020 年の後半に発売されます。)
- Wi-Fi 6 の対応状況を示すダッシュボードは、Cisco DNA Center のアシュアランスメニューにある新しいダッシュボードです。このダッシュボードではネットワーク上にある全デバイスが網羅され、デバイスやソフトウェア、クライアントが新しい Wi-Fi 6 規格との互換性を備えているかが検証されます。アップグレード後、高度なワイヤレス分析により、Wi-Fi 6 の導入によるパフォーマンスとキャパシティの向上が示されます。これはワイヤレスネットワークをアップグレードする場面とその方法をチームが定義するのに役立つ優れたツールであり、プロトコル別 (802.11 ac/n/abg) のアクセスポイントの分布やプロトコル別のワイヤレス接続の通信時間の効率に関する情報を把握し、緻密な評価指標を入手できます。

これらすべての機能により、ワイヤレスネットワークで可能なエンドユーザ エクスペリエンスを保証します。さらに、業界最多の品揃えを誇る [802.11n および 802.11ac アンテナ](#)により、多様な導入シナリオに最適なカバレッジを提供します。

また、Cisco Aironet 1850 シリーズ アクセスポイントは次もサポートします。

- Onyx **BLE ビーコンソリューション**。これは、Aironet アクセスポイントにない機能である、組み込みの Bluetooth Low Energy (BLE) を提供します。Onyx BLE ビーコンは、屋内のロケーションベースのサービスとスムーズに連携します。屋内ナビゲーション、近接マーケティング、およびアセットトラッキングに使用される BLE は、日を追うことにますます便利になっているツールです。Onyx BLE ビーコンを使用することで、お客様がネットワークに BLE を追加できます。

製品仕様

表 1. 製品仕様

機能	仕様
ソフトウェア	AireOS ワイヤレスコントローラに付属している Cisco Unified Wireless Network ソフトウェアリリース : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Aironet 1850 シリーズ アクセスポイントでは 8.1 MR1 以降
展開モード	一元化ローカル、スタンドアロン*、スニファ、Cisco FlexConnect™、モニタ**、OfficeExtend**、メッシュ**
サポート対象の Wireless LAN コントローラ	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco 2500 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco 3500 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Wireless Controller Module for ISR G2、Cisco Wireless Services Module 2 (WiSM2) for Catalyst® 6500 シリーズ スイッチ、Cisco 5500 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Flex® 7500 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco 8500 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco 5760 シリーズ ワイヤレス コントローラ、** 統合コントローラを備えた Cisco Catalyst 3650/3850 シリーズ スイッチ** • Cisco Mobility Express

機能	仕様				
802.11n バージョン 2.0 および関連機能	<ul style="list-style-type: none"> • 4 空間ストリームの 4 X 4 MIMO • 最大比合成 (MRC) • 20 および 40 MHz チャンネル • 最大 600 Mbps の PHY データレート (5 GHz で 40 MHz) • パケットアグリゲーション : A-MPDU (Tx/Rx) 、 A-MSDU (Tx/Rx) • 802.11 Dynamic Frequency Selection (DFS) • Cyclic Shift Diversity (CSD) サポート 				
802.11ac Wave 1 および 2 の機能	<ul style="list-style-type: none"> • 4 空間ストリームの 4 X 4 MIMO、シングルユーザ MIMO • 3 空間ストリームの 4 X 4 MIMO、マルチユーザ MIMO • MRC • 802.11ac ビームフォーミング (送信ビームフォーミング) • 20、40、80 MHz チャンネル • 最大 1.7 Gbps の PHY データレート (5 GHz で 80 MHz) • パケットアグリゲーション : A-MPDU (Tx/Rx) 、 A-MSDU (Tx/Rx) • 802.11 DFS • CSD サポート • 不正デバイスの検出 				
サポートされるデータレート	802.11a : 6、9、12、18、24、36、48、および 54 Mbps				
	802.11g : 1、2、5.5、6、9、11、12、18、24、36、48、および 54 Mbps				
	2.4 GHz (20 MHz のみと MCS 0 から MCS 23) および 5 GHz の 802.11n データレート :				
	MCS インデックス ¹	GI ² = 800 ns	GI = 800 ns	GI = 400 ns	GI = 400 ns
		20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)
	0	6.5	13.5	7.2	15
	1	13	27	14.4	30
	2	19.5	40.5	21.7	45
3	26	54	28.9	60	
4	39	81	43.3	90	
5	52	108	57.8	120	
6	58.5	121.5	65	135	

¹ MCS インデックス : Modulation and Coding Scheme (MCS; 変調および符号化方式) インデックスは、空間ストリーム数、変調、符号化レート、およびデータレート値を決定します。

² GI : シンボル間のガードインターバル (GI) により、レシーバーはマルチパス遅延スプレッドの影響を抑制することができます。

機能	仕様				
	MCS インデックス ³	GI ⁴ = 800 ns	GI = 800 ns	GI = 400 ns	GI = 400 ns
サポートされるデータレート		20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)
	7	65	135	72.2	150
	8	13	27	14.4	30
	9	26	54	28.9	60
	10	39	81	43.3	90
	11	52	108	57.8	120
	12	78	162	86.7	180
	13	104	216	115.6	240
	14	117	243	130	270
	15	130	270	144.4	300
	16	19.5	40.5	21.7	45
	17	39	81	43.3	90
	18	58.5	121.5	65	135
	19	78	162	86.7	180
	20	117	243	130	270
	21	156	324	173.3	360
	22	175.5	364.5	195	405
	23	195	405	216.7	450
	24	26	54	28.9	60
	25	52	108	57.8	120
	26	78	162	86.7	180
	27	104	216	115.6	240
	28	156	324	173.3	360
	29	208	432	231.1	480

機能	仕様							
	30	234	486			260	540	
	31	260	540			288.9	600	
	802.11ac データレート (5 GHz) :							
	MCS インデックス	空間ストリーム	GI = 800 ns			GI = 400 ns		
			20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	80 MHz レート (Mbps)	20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	80 MHz レート (Mbps)
	0	1	6.5	13.5	29.3	7.2	15	32.5
	1	1	13	27	58.5	14.4	30	65
	2	1	19.5	40.5	87.8	21.7	45	97.5
	3	1	26	54	117	28.9	60	130
	4	1	39	81	175.5	43.3	90	195
	5	1	52	108	234	57.8	120	260
	6	1	58.5	121.5	263.3	65	135	292.5
	7	1	65	135	292.5	72.2	150	325
	8	1	78	162	351	86.7	180	390

³ MCS インデックス : Modulation and Coding Scheme (MCS; 変調および符号化方式) インデックスは、空間ストリーム数、変調、符号化レート、およびデータレート値を決定します。

⁴ GI : シンボル間のガードインターバル (GI) により、レシーバーはマルチパス遅延スプレッドの影響を抑制することができます。

機能	仕様							
	MCS インデックス	空間ストリーム	GI = 800 ns			GI = 400 ns		
			20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	80 MHz レート (Mbps)	20 MHz レート (Mbps)	40 MHz レート (Mbps)	80 MHz レート (Mbps)
	9	1	-	180	390	-	200	433.3
	0	2	13	27	58.5	14.4	30	65
	1	2	26	54	117	28.9	60	130
	2	2	39	81	175.5	43.3	90	195

機能	仕様							
	3	2	52	108	234	57.8	120	260
	4	2	78	162	351	86.7	180	390
	5	2	104	216	468	115.6	240	520
	6	2	117	243	526.5	130	270	585
	7	2	130	270	585	144.4	300	650
	8	2	156	324	702	173.3	360	780
	9	2	-	360	780	-	400	866.7
	0	3	19.5	40.5	87.8	21.7	45	97.5
	1	3	39	81	175.5	43.3	90	195
	2	3	58.5	121.5	263.3	65	135	292.5
	3	3	78	162	351	86.7	180	390
	4	3	117	243	526.5	130	270	585
	5	3	156	324	702	173.3	360	780
	6	3	175.5	364.5	-	195	405	-
	7	3	195	405	877.5	216.7	450	975
	8	3	234	486	1053	260	540	1170
	9	3	260	540	1170	288.9	600	1300
	0	4	26	54	117	28.9	60	130
	1	4	52	108	234	57.8	120	260
	2	4	78	162	351	86.7	180	390
	3	4	104	216	468	115.6	240	520
	4	4	156	324	702	173.3	360	780
	5	4	208	432	936	231.1	480	1040
	6	4	234	486	1053	260	540	1170
	7	4	260	540	1170	288.9	600	1300

機能	仕様							
	8	4	312	648	1404	346.7	720	1560
	9	4	-	720	1560	-	800	1733.3
非オーバーラップチャンネルの最大数	A (A 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、8 チャンネル (5.600 ~ 5.640 GHz を除く) • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル B (B 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.720 GHz、12 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル C (C 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル D (D 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル E (E 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、8 チャンネル (5.600 ~ 5.640 GHz を除く) F (F 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.250 ~ 5.350 GHz、4 チャンネル • 5.725 ~ 5.825 GHz、4 チャンネル H (H 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.150 ~ 5.350 GHz、8 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル I (I 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル 				K (K 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.620 GHz、7 チャンネル • 5.745 ~ 5.805 GHz、4 チャンネル N (N 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル Q (Q 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、11 チャンネル R (R 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.660 ~ 5.805 GHz、7 チャンネル S (S 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.472 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、11 チャンネル • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル T (T 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.280 ~ 5.320 GHz、3 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、8 チャンネル (5.600 ~ 5.640 GHz を除く) • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル Z (Z 規制ドメイン) : <ul style="list-style-type: none"> • 2.412 ~ 2.462 GHz、3 チャンネル • 5.180 ~ 5.320 GHz、8 チャンネル • 5.500 ~ 5.700 GHz、8 チャンネル (5.600 ~ 5.640 GHz を除く) • 5.745 ~ 5.825 GHz、5 チャンネル 			
注 : お客様の国における使用認可をご確認ください。特定の国に対応する認定を確認するには、 https://www.cisco.com/go/aironet/compliance を参照してください。								

機能	仕様	
非オーバーラップチャンネルの最大数	2.4 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11b/g : <ul style="list-style-type: none"> ◦ 20 MHz : 3 ● 802.11n <ul style="list-style-type: none"> ◦ 20 MHz : 3 	5 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11a の場合 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ 20 MHz : 25 ● 802.11n <ul style="list-style-type: none"> ◦ 20 MHz : 25 ◦ 40 MHz : 12 ● 802.11ac : <ul style="list-style-type: none"> ◦ 20 MHz : 21 ◦ 40 MHz : 12 ◦ 80 MHz : 6

注：この値は規制ドメインによって異なります。各規制ドメイン別の詳細については、製品マニュアルを参照してください。

受信感度	<ul style="list-style-type: none"> ● 802.11b (CCK) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -101 dBm (1 Mbps) ◦ -98 dBm (2 Mbps) ◦ -92 dBm (5.5 Mbps) ◦ -89 dBm (11 Mbps) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 802.11g (HT20 以外) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -96 dBm (6 Mbps) ◦ -95 dBm (9 Mbps) ◦ -94 dBm (12 Mbps) ◦ -92 dBm (18 Mbps) ◦ -88 dBm (24 Mbps) ◦ -85 dBm (36 Mbps) ◦ -81 dBm (48 Mbps) ◦ -79 dBm (54 Mbps) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 802.11a (HT20 以外) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -96 dBm (6 Mbps) ◦ -95 dBm (9 Mbps) ◦ -94 dBm (12 Mbps) ◦ -92 dBm (18 Mbps) ◦ -88 dBm (24 Mbps) ◦ -85 dBm (36 Mbps) ◦ -80 dBm (48 Mbps) ◦ -79 dBm (54 Mbps) 	
	2.4 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11n (HT20) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -96 dBm (MCS0) ◦ -93 dBm (MCS1) ◦ -90 dBm (MCS2) ◦ -87 dBm (MCS3) ◦ -84 dBm (MCS4) ◦ -79 dBm (MCS5) ◦ -78 dBm (MCS6) ◦ -76 dBm (MCS7) ◦ -93 dBm (MCS8) ◦ -90 dBm (MCS9) ◦ -87 dBm (MCS10) ◦ -84 dBm (MCS11) ◦ -81 dBm (MCS12) ◦ -76 dBm (MCS13) ◦ -75 dBm (MCS14) ◦ -73 dBm (MCS15) ◦ -91 dBm (MCS16) ◦ -88 dBm (MCS17) ◦ -85 dBm (MCS18) ◦ -82 dBm (MCS19) ◦ -79 dBm (MCS20) ◦ -74 dBm (MCS21) ◦ -73 dBm (MCS22) ◦ -71 dBm (MCS23) 		5 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11n (HT20) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -96 dBm (MCS0) ◦ -92 dBm (MCS1) ◦ -90 dBm (MCS2) ◦ -86 dBm (MCS3) ◦ -83 dBm (MCS4) ◦ -79 dBm (MCS5) ◦ -77 dBm (MCS6) ◦ -76 dBm (MCS7) ◦ -93 dBm (MCS8) ◦ -89 dBm (MCS9) ◦ -87 dBm (MCS10) ◦ -83 dBm (MCS11) ◦ -80 dBm (MCS12) ◦ -76 dBm (MCS13) ◦ -74 dBm (MCS14) ◦ -73 dBm (MCS15) ◦ -91 dBm (MCS16) ◦ -87 dBm (MCS17) ◦ -85 dBm (MCS18) ◦ -81 dBm (MCS19) ◦ -78 dBm (MCS20) ◦ -74 dBm (MCS21) ◦ -72 dBm (MCS22) ◦ -71 dBm (MCS23) ◦ -89 dBm (MCS24) ◦ -85 dBm (MCS25) ◦ -83 dBm (MCS26) ◦ -79 dBm (MCS27) ◦ -76 dBm (MCS28) ◦ -72 dBm (MCS29) ◦ -70 dBm (MCS30) ◦ -69 dBm (MCS31) 	5 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11n (HT40) <ul style="list-style-type: none"> ◦ -93 dBm (MCS0) ◦ -90 dBm (MCS1) ◦ -87 dBm (MCS2) ◦ -84 dBm (MCS3) ◦ -80 dBm (MCS4) ◦ -76 dBm (MCS5) ◦ -75 dBm (MCS6) ◦ -73 dBm (MCS7) ◦ -90 dBm (MCS8) ◦ -87 dBm (MCS9) ◦ -84 dBm (MCS10) ◦ -81 dBm (MCS11) ◦ -77 dBm (MCS12) ◦ -73 dBm (MCS13) ◦ -72 dBm (MCS14) ◦ -70 dBm (MCS15) ◦ -88 dBm (MCS16) ◦ -85 dBm (MCS17) ◦ -82 dBm (MCS18) ◦ -79 dBm (MCS19) ◦ -75 dBm (MCS20) ◦ -71 dBm (MCS21) ◦ -70 dBm (MCS22) ◦ -68 dBm (MCS23) ◦ -86 dBm (MCS24) ◦ -83 dBm (MCS25) ◦ -80 dBm (MCS26) ◦ -77 dBm (MCS27) ◦ -73 dBm (MCS28) ◦ -69 dBm (MCS29) ◦ -68 dBm (MCS30) ◦ -66 dBm (MCS31)

機能	仕様			
	802.11ac 受信感度			
	802.11ac (非 HT80)			
	<ul style="list-style-type: none"> • -89 dBm (6 Mbps) • -73 dBm (54 Mbps) 			
	MCS インデックス	空間ストリーム		
			VHT20	VHT40
			VHT80	
	0	1	-96 dBm	-89 dBm
	7	1	-76 dBm	-70 dBm
	8	1	-71 dBm	-66 dBm
	9	1	該当なし	-64 dBm
	0	2	-93 dBm	-86 dBm
	7	2	-73 dBm	-67 dBm
	8	2	-68 dBm	-63 dBm
	9	2	該当なし	-61 dBm
	0	3	-91 dBm	-84 dBm
	7	3	-71 dBm	-65 dBm
	8	3	-66 dBm	-61 dBm
	9	3	-64 dBm	-59 dBm

機能	仕様				
	MCS インデックス	空間ストリーム			
			VHT20	VHT40	VHT80
	0	4	-89 dBm	-86 dBm	-82 dBm
	7	4	-69 dBm	-66 dBm	-63 dBm
	8	4	-64 dBm	-62 dBm	-59 dBm
	9	4	該当なし	-60 dBm	-57 dBm
最大送信電力	2.4 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11b <ul style="list-style-type: none"> ◦ 22 dBm (アンテナ 3 本) ● 802.11g <ul style="list-style-type: none"> ◦ 22 dBm (アンテナ 3 本) ● 802.11n (HT20) <ul style="list-style-type: none"> ◦ 22 dBm (アンテナ 3 本) 		5 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 802.11a <ul style="list-style-type: none"> ◦ 23 dBm (アンテナ 4 本) ● 802.11n (HT20) <ul style="list-style-type: none"> ◦ 23 dBm (アンテナ 4 本) ● 802.11n (HT40) <ul style="list-style-type: none"> ◦ 23 dBm (アンテナ 4 本) ● 802.11ac <ul style="list-style-type: none"> ◦ HT80 以外 : 23 dBm (アンテナ 4 本) ◦ VHT20 : 23 dBm (アンテナ 4 本) ◦ VHT40 : 23 dBm (アンテナ 4 本) ◦ VHT80 : 23 dBm (アンテナ 4 本) 		
<p>注 : 最大出力設定は、チャンネルおよび各国の規制によって異なります。詳細については製品のドキュメンテーションを参照してください。</p>					
利用可能な送信出力設定	2.4 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 22 dBm ● 19 dBm ● 16 dBm ● 13 dBm ● 10 dBm ● 7 dBm ● 4 dBm ● 1 dBm 		5 GHz <ul style="list-style-type: none"> ● 23 dBm ● 20 dBm ● 17 dBm ● 14 dBm ● 11 dBm ● 8 dBm ● 5 dBm ● 2 dBm 		
<p>注 : 最大出力設定は、チャンネルおよび各国の規制によって異なります。詳細については製品のドキュメンテーションを参照してください。</p>					
内蔵アンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ● 2.4 GHz、ゲイン 3 dBi、内蔵オムニ型、水平ビーム幅 360 度 ● 5 GHz、ゲイン 5 dBi、内蔵オムニ型、水平ビーム幅 360 度 				
外部アンテナ (別売り)	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大 6 dBi のアンテナゲインでの使用を認定 (2.4 GHz および 5 GHz) ● シスコは業界で最多種類の アンテナ を取り揃え、多様な導入シナリオに最適なカバレッジを提供 				

機能	仕様
インターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> 10/100/1000BASE-T 自動検知 (RJ-45) 、 Power over Ethernet (PoE) X 1 10/100/1000BASE-T 自動検知 (RJ-45) 、 AUX (リンクアグリゲーションに使用) X 1 管理コンソールポート (RJ-45) USB 2.0 (将来のソフトウェアで有効)
インジケータ	<ul style="list-style-type: none"> ステータス LED によるブートローダーステータス、アソシエーションステータス、動作ステータス、ブートローダー警告、ブートローダーエラーの表示
寸法 (幅×奥行×高さ)	<ul style="list-style-type: none"> アクセスポイント (マウントブラケットを除く) : 210.8 X 210.8 X 50.8 mm (8.3 X 8.3 X 2 インチ)
重量	<ul style="list-style-type: none"> 1.41 kg (3.12 ポンド)
環境	<p>Cisco Aironet 1850i</p> <ul style="list-style-type: none"> 非動作 (保管) 温度 : -30 ~ 70°C (-22 ~ 158°F) 非動作 (保管) 時の高度試験 : 25°C、4,572 m (15,000 フィート) 動作温度 : 0 ~ 50°C (32 ~ 104°F) 動作湿度 : 10 ~ 90% (結露しないこと) 動作高度試験 : 40°C、3,000 m (9,843 フィート) <p>Cisco Aironet 1850e</p> <ul style="list-style-type: none"> 非動作 (保管) 温度 : -30 ~ 70°C (-22 ~ 158°F) 非動作 (保管) 時の高度試験 : 25°C、4,572 m (15,000 フィート) 動作温度 : -20 ~ 50°C (-4 ~ 122°F) 動作湿度 : 10 ~ 90% (結露しないこと) 動作高度試験 : 40°C、3,000 m (9,843 フィート)
システム メモリ	<ul style="list-style-type: none"> 1 GB DRAM 256 MB のフラッシュ
入力電力要件	<ul style="list-style-type: none"> AP1850 : 44 ~ 57 VDC 電源およびパワーインジェクタ : 100 ~ 240 VAC、50 ~ 60 Hz
給電規格	<ul style="list-style-type: none"> 20.9W <p>注 : Power over Ethernet (PoE) を使用する場合、相互接続ケーブルの長さに応じて、給電側機器からの消費電力が若干高くなります。</p>
電源オプション	<ul style="list-style-type: none"> 802.3at 拡張 PoE Cisco パワーインジェクタ、AIR-PWRINJ4= Cisco ローカル電源装置、AIR-PWR-C= Cisco パワーインジェクタ、AIR-PWRINJ5= (注 : このインジェクタは 802.3af のみをサポートします) 802.3af <p>注 : 802.3af PoE が電源の場合、(1) 1852e 2.4 GHz 無線は 3x4 から 2x3 にシフトします。(2) 1852i と 1852e の両方で USB ポートと AUX イーサネットポートが無効になります。</p>
保証	制限付きライフタイムハードウェア保証

機能	仕様
適合規格	<ul style="list-style-type: none"> ◦ UL 60950-1 ◦ CAN/CSA-C22.2 No. 60950-1 ◦ UL 2043 ◦ IEC 60950-1 ◦ EN 60950-1 ◦ 2800e 用 EN 50155 (動作温度 : -20 ~ 50°C) ● 無線の認可 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ FCC Part 15.247、15.407* ◦ RSS-210 (カナダ) ◦ EN 300.328、EN 301.893 (欧州) ◦ ARIB-STD 66 (日本) ◦ ARIB-STD T71 (日本) ◦ EMI および感受性 (クラス B) ◦ FCC Part 15.107 および 15.109* ◦ ICES-003 (カナダ) ◦ VCCI (日本) ◦ EN 301.489-1 および -17 (欧州) ◦ Medical 指令 (93/42/EEC) に関する EN 60601-1-2 EMC 要件 ● IEEE 標準 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ IEEE 802.11a/b/g、802.11n、802.11h、802.11d ◦ IEEE 802.11ac ドラフト 5 ● セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ◦ 802.11i、Wi-Fi Protected Access 3 (WPA3)、(WPA2)、WPA ◦ 802.1X ◦ Advanced Encryption Standard (AES) ● 拡張認証プロトコル (EAP) の種類 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ EAP-Transport Layer Security (TLS) ◦ EAP-Tunneled TLS (TTLS) または Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol Version 2 (MSCHAPv2) ◦ Protected EAP (PEAP) v0 または EAP-MSCHAPv2 ◦ EAP-Flexible Authentication via Secure Tunneling (FAST) ◦ PEAP v1 または EAP-Generic Token Card (GTC) ◦ EAP-Subscriber Identity Module (SIM) ● マルチメディア : <ul style="list-style-type: none"> ◦ Wi-Fi マルチメディア (WMM) ● その他 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ FCC Bulletin OET-65C ◦ RSS-102

* アクセスポイントで実行するコントローラ機能を備えた Cisco Mobility Express によりサポートされます。Cisco IOS® ソフトウェアの Autonomous ベースではありません。

** 将来的にサポート。

ライセンス

コントローラにアクセスポイントを接続するには、Cisco DNA ソフトウェア サブスクリプションが必要です。Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに接続する資格を得るには、アクセスポイントに Cisco DNA サブスクリプション ライセンスが必要です。

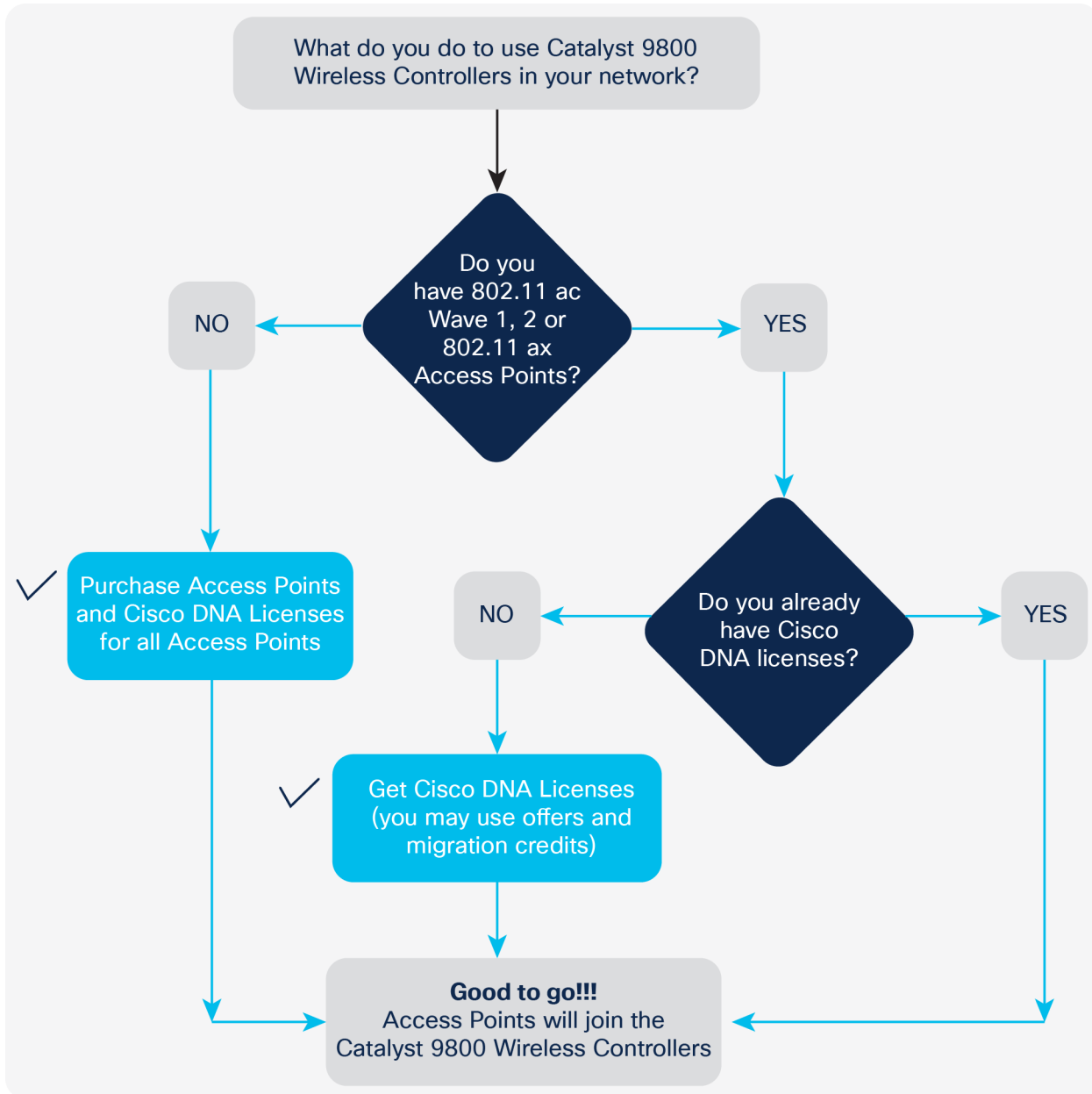


図 2.

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに接続するアクセスポイントのライセンス要件の決定

Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラに接続するアクセスポイントには、新しく簡素化されたソフトウェア サブスクリプション パッケージがあります。これらは 3 層の Cisco DNA ソフトウェア (Cisco DNA Essentials、Cisco DNA Advantage、Cisco DNA Premier) をサポートします。

Cisco DNA ソフトウェア サブスクリプションは、アクセスポイントに関するシスコのイノベーションを提供します。これらには永続的な Network Essentials と Network Advantage のライセンスオプションもあり、802.1X 認証、Quality of Service (QoS)、プラグアンドプレイ (PnP) のようなワイヤレスの基本要素だけでなく、テレメトリや可視性、シングルサインオン (SSO)、セキュリティ制御にも対応します。

Cisco DNA サブスクリプション ソフトウェアは、3 年、5 年、または 7 年のサブスクリプション期間を購入する必要があります。期間満了までに更新しない場合は Cisco DNA の機能も無効になりますが、Network Essentials と Network Advantage の機能はそのまま使えます。

永続的な Network Essentials および Network Advantage を含む Cisco DNA ソフトウェアの全機能リストについては、次の機能マトリックスを参照してください。https://www.cisco.com/c/m/en_us/products/software/dna-subscription-wireless/en-sw-sub-matrix-wireless.html?oid=porew018984

2 つのモードのライセンスを使用できます。

- スマートライセンス (SL) によってライセンス付与が簡単になり、柔軟性が向上します。次のようなメリットを実現しました。
 - シンプル：ライセンスを簡単に調達、導入、管理できます。デバイスの自動登録により、製品アクティベーションキー (PAK) が不要になります。
 - フレキシブル：ライセンスは 1 つのアカウントにプールされ、必要に応じて、ネットワーク経由でライセンスを自由に移動できます。
 - スマート：所有するライセンスと使用状況をリアルタイムで確認できるため、ライセンスをスマートに管理できます。
- Specific License Reservation (SLR) は、非常にセキュリティの高いネットワークで使用される機能です。この機能により、お客様は使用状況をシスコと同期通信することなく、デバイス (製品インスタンス) にソフトウェアライセンスを導入できます。シスコまたはサテライトとは通信しません。ライセンスは、すべてのコントローラ向けに予約されます。これは、ノードベースのライセンスです。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレスコントローラでは、4 つのレベルのライセンスがサポートされます。コントローラは、4 つのうちいずれかのレベルで機能するように設定できます。

- Cisco DNA Essentials：このレベルでは、Cisco DNA Essentials 機能セットがサポートされます。
- Cisco DNA Advantage：このレベルでは、Cisco DNA Advantage 機能セットがサポートされます。
- NE：このレベルでは、Network Essentials 機能セットがサポートされます。
- NA：このレベルでは、Network Advantage 機能セットがサポートされます。

Cisco DNA Premier は ISE ライセンスおよび Cisco DNA Spaces Extend とのバンドルです。Cisco DNA Advantage が含まれるため、このレベルでは、Cisco DNA Advantage の機能セットがサポートされます。Cisco DNA Essentials をご購入のお客様については、Network Essentials がサポートされ、有効期限終了後も引き続き機能します。また、Cisco DNA Advantage または Cisco DNA Premier をご購入のお客様については、Network Advantage がサポートされ、有効期限終了後も引き続き機能します。

コントローラの初回起動は Cisco DNA Advantage レベルで実行されます。

ご質問がある場合は、[ask-catalyst9800licensing](#) で Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ ライセンスのメールグループにお問い合わせください

保証情報

Cisco Aironet 1850 シリーズ アクセスポイントには、制限付きライフタイム保証が付属します。この保証は、製品を最初に購入したエンドユーザが所有または使用し続ける限り、ハードウェアに対する包括的な保証を提供するというものです。この保証には、10 日以内の代替品先行手配が含まれます。また、ソフトウェアメディアについては、90 日間、障害が発生しないことを保証します。詳細については、<https://www.cisco.com/jp/go/warranty> を参照してください。

シスコの環境保全への取り組み

シスコの[企業の社会的責任](#) (CSR) レポートの「環境保全」セクションでは、製品、ソリューション、運用・拡張運用、サプライチェーンに対する、シスコの環境保全ポリシーとイニシアチブを掲載しています。

表 2 に、環境の持続可能性に関する主要なトピック (CSR レポートの「環境の持続性」セクションに記載) への参照リンクを示します。

表 2. 持続可能性に関する情報への参照リンク

持続可能性に関するトピック	参照先
製品の材料に関する法律および規制に関する情報	材料
製品、バッテリー、パッケージを含む電子廃棄物法規制に関する情報	WEEE 適合性
持続可能性に関するお問い合わせ	連絡先 : csr_inquiries@cisco.com

シスコでは、パッケージデータを情報共有目的でのみ提供しています。これらの情報は最新の法規制を反映していない可能性があります。シスコは、情報が完全、正確、または最新のものであることを表明、保証、または確約しません。これらの情報は予告なしに変更されることがあります。

構成情報

シスコ製品の購入方法については、[購入案内](#) ページを参照してください。ソフトウェアをダウンロードするには、[Cisco Software Center](#) にアクセスしてください。

表 3. 発注情報

製品名	製品番号
Aironet 1850 シリーズ	<p>Cisco Aironet 1852i アクセスポイント：屋内環境向け（内蔵アンテナ）</p> <ul style="list-style-type: none">AIR-AP1852I-x-K9：デュアルバンド中央管理型 802.11a/g/n/ac、Wave 2AIR-AP1852I-x-K9C：デュアルバンド中央管理型 802.11a/g/n/ac、Wave 2、構成可能規制ドメイン：(x = 規制ドメイン) <p>Cisco Aironet 1852e アクセスポイント：要件の厳しい屋内環境向け（外部アンテナ）</p> <ul style="list-style-type: none">AIR-AP1852E-x-K9：デュアルバンド中央管理型 802.11a/g/n/ac、Wave 2AIR-AP1852E-x-K9C：デュアルバンド中央管理型 802.11a/g/n/ac、Wave 2、構成可能規制ドメイン：(x = 規制ドメイン) <p>お客様の国における使用認可をご確認ください。特定の国に該当する認可、または特定の国で使用される規制ドメインを確認するには、https://www.cisco.com/go/aironet/compliance を参照してください。</p> <p>すべての規制ドメインで認可されているわけではありません。認可され次第、グローバル価格表に製品番号が記載されます。</p>

シスコ サービス

シスコおよびパートナー各社は、テクノロジーへの投資をより早く最大限にご活用いただけるように、カスタマイズされたインテリジェントなサービスを提供しています。シスコワイヤレス LAN サービスは、ネットワークに関する豊富な経験と認定パートナーの幅広いエコシステムを生かし、お客様に堅実でスケーラブルなモビリティネットワークを展開していただけるよう支援します。Cisco Unified Wireless Network をベースに、有線とワイヤレスを統合したネットワーク インフラストラクチャによる運用の効率化をさらにアップし、リッチなメディアコラボレーションを実現します。シスコはパートナー企業と連携し、専門知識に基づくサービスの計画、構築、運用を通じて、お客様が高度なモビリティサービスに迅速に移行し、導入後もアーキテクチャの最適なパフォーマンス、信頼性、セキュリティを維持できるように支援します。

Cisco Wireless LAN サービス

- AS-WLAN-CNSLT : [Cisco Wireless LAN Network Planning and Design サービス](#)
- AS-WLAN-CNSLT : [Cisco Wireless LAN 802.11n 移行サービス](#)
- AS-WLAN-CNSLT : [Cisco Wireless LAN Performance and Security Assessment サービス](#)

Cisco Capital

目的達成に役立つ柔軟な支払いソリューション

Cisco Capital により、目標を達成するための適切なテクノロジーを簡単に取得し、ビジネス変革を実現し、競争力を維持できます。総所有コスト (TCO) の削減、資金の節約、成長の促進に役立ちます。100 カ国あまりの国々では、ハードウェア、ソフトウェア、サービス、および他社製製品を購入するのに、シスコの柔軟な支払いソリューションを利用して、簡単かつ計画的に支払うことができます。[詳細はこちらをご覧ください。](#)

©2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2021年6月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107 - 6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先